

第14回研究大会プレ企画（2018年度第2回談話会）報告

Report on the Pre-symposium of the 14th Conference

実施要領 Outline on Implementation

- (1) テーマ：今、対話的实践による「総合知」のあり方を問う
- (2) 趣 旨：

2019年大会シンポジウムは、テーマ「いのちのゆれの現場から実践知を問う」として、4名のパネリストを招き、「総合知」の今日的なあり方について、パネリストからの問題提起に関し参加者同士で認識を深めるための話し合いを行うことが企画されている（シンポジウム趣旨案参照）。4名のパネリストは地域医療、国際ボランティア、障害をもつ者の発達保障教育、「いのちの電話」相談などの専門家として今日の社会における人間の生死にたちあい、当事者を中心にした課題の実践的解決のために尽力されている。したがって、大会参加者にとって本学会の目指す「人間に対する全体知」のあり方や役割を自らに問うまたとない機会であると思われる。

しかし、「専門知」「実践知」「全体知」など多様な「知」のあり方に関する我々の認識はこれまで十分に議論されているとは言い難い。また、大会シンポジウム自体が新しい「総合知」の探求の場となるべく、「対話」を意識したものとなっているが、そもそも「対話」の捉え方自体、会員の間で多様性があり、その必要性についての認識も明確だとは言えない。

そこで、大会に先立ち「専門知」「実践知」「全体知」などについての認識を深め、「対話」とは何かということに関しても認識を深めるための議論の場を持つことが必要だと思われる。その場として3月16日の談話会を大会プレ企画として行うことを提案したい、この企画をとおして参加者やパネリストに大会シンポジウムの課題や意義が共有されるならば、大会の成功のための重要な一步を踏み出すことができると思われる。

(3) アジェンダ

- ◇期日：2019年3月16日（14:45~17:30）
- ◇会場：津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス SA316 教室
- ◇主幹：研究・談話委員会・大会企画委員会共催
（以下敬称略）
- ◇司会：古沢広祐
- ◇プレ企画主催者からの問題提起（話題提供者各自20分の質疑応答を含め30分）

◎第1報告：中村 俊

シンポジウムテーマ「いのちのゆれの現場から実践知を問う」の意味するもの

◎第2報告：河上睦子

〈実践知とジェンダー〉—ハラスメント相談にかかわって—

◎第3報告：穴見慎一

総合知と全体知—私たち（本学会）は何を知ろうとしているのか？

休憩（10分）

◇自由討論 65分